

《平成 27 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業報告》

前年度に引き続き、相談業務、機関支援、「サロン」、「子育てアシスト（年中児集団行動観察）」、「ペアレント・トレーニング」、普及啓発を行っている。「子育てアシスト」は機関支援の一環として実施している。

1. 相談業務

(1) 相談件数(H27.3.31 現在)

○実支援人数 755 人→前年度より 2.4%減(H26 年度 774 人)

○延支援件数 2,903 件→ 前年度より 9.7%減(H26 年度 3,218 件)

(2) 相談支援・発達支援状況

相談支援・発達支援は日常生活（コミュニケーション、行動上のこと、学校や所属機関のこと等）の様々な相談に応じている。また必要に応じて所属機関（保育所、幼稚園、学校、福祉施設、医療機関等）と連携・協働し、本人や家族が安心して過ごせる環境を作るための支援も行っている。

相談の傾向としては 18 歳以上が全体の 51.1%を占め、家族・本人からの相談が中心である。家族の相談は情報提供や生活上の困難さに対する具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素の強いものが多い。相談期間が 4～5 年と長期にわたるケースも多いが、次のステップ（福祉サービスの利用等）へ進めた方も増えており、長期にわたる丁寧な支援が必要である。配偶者の発達障害についての相談も増えているが、未診断ケースやDV、子どもへの虐待などの問題が複雑に絡み合っており、対応が困難なケースも多い。

18 歳未満では学齢期の相談が最も多い。相談内容は家庭や学校における学習や対人関係への支援に関する相談から、不登校や学校不適応、養育困難等、問題が深刻化・複雑化しているものまで幅が広い。家族への対応方法のアドバイスが支援の中心であるが、小学校高学年以降では本人自身が困り感を相談できることを目標に、家族と別々に面接を行う場合も多い。問題が複雑化しているケースにおいては関連機関と連携・協働しての支援が不可欠である。

幼児期の相談では診断を受けて、幼稚園や保育園、保育所との連携を希望するケースが増加した。必要に応じて園との個別調整会議を行い、連携を図った。子どもの障害について家族が十分理解し、他者に説明できる段階にない場合も多く、障害についての基本的な知識や対応方法等を伝えていくことが家族支援の中心となっている。

(3) 相談支援・就労支援状況

就労準備(千葉障害者職業センターの職業相談・評価や発達障害者支援カリキュラム等の活用、他の就労支援機関の利用等)や就職活動(ハローワークや民間求人サイト等)、就労後の定着など、一人ひとりのニーズに即した支援を行っている。今年度の就職者数 16 人(内、障害者雇用枠 9 人)。主な就業先は、一般事務(事務補助含)、軽作業等である。

2. 機関支援

幼稚園・保育園や各種学校、福祉施設、企業等を訪問し、機関からの各種の相談に応じた。相談の内容としては、障害のある、または障害の疑われる者への対応や指導方法の助言が中心である。行動観察を行う他、関係者より日頃の様子等について聞き取りを行い、対応方法や支援方針について協議を行っている。また、対象者に関するだけでなく、周囲の環境調整についても必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

巡回相談事業の開始に伴い、保護者より相談への同意が得られないケースについて、保育所(園)・幼稚園等から対応方法への助言を求める機関支援依頼が増加してきている。

3. 普及啓発

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。一般市民や関係者を対象とした啓発イベント、研修会を開催し、発達障害への理解浸透を図っている。生活サポート講座はより参加し易い講座となるよう、主催講演会と同日開催とし、参加対象者や定員を上げた。その他、発達障害の理解や対応に関すること、就労支援に関することなど、関係機関が開催する研修会などに支援員を講師として派遣している。

①世界自閉症啓発デー

平成 27 年 4 月 4 日(土)11:00~17:00

第 7 回世界自閉症啓発デー in ちば「チャンプルー元気フェスタ」

場所:きぼーる 1 階アトリウム

参加人数:500 人

②主催研修会

・平成 27 年 8 月 15 日(土)10:00~12:00

発達障害講座「支援を変革せよ テクノロジーが発達障害の未来を変える」

講師:東京大学 先端科学技術研究センター 教授 中邑 賢龍氏

参加人数:63 人

・平成 28 年 2 月 27 日(土)10:00~15:00

イトコサガシ 親子講演会

「社会の側に立つのではなく、個の立場に立って発達障害を視る」完全版

講師:東京都成人発達障害当事者会「イトコサガシ」代表 冠地 情氏
冠地 俊子氏
参加人数:115 人

③生活サポート講座

- ・平成 27 年 8 月 15 日(土)13:15～16:30
「正しく怖がるインターネット～事例に学ぶ情報モラル～」
講師:グリー株式会社 政策企画室 渉外チーム 小宮山 利恵子氏
参加人数:32 名
「知らなかったでは、済まされない～子どもたちを狙う！詐欺・悪質商法！～」
講師:千葉市消費生活センター 消費生活相談員 高崎 文子氏
参加人数:27 人

④講師派遣

- ・平成 27 年 6 月 19 日 14:00～16:30
千葉市こころの健康センター 平成 27 年度 発達障害講演会
参加人数:97 人
- ・平成 27 年 7 月 29 日 13:00～15:30
公益社団法人千葉市幼稚園協会 夏の特別支援教育研修会
参加人数:80 人
- ・平成 27 年 8 月 27 日 10:00～12:00
地域子育て支援センター 子育てひろば・うたせ
参加人数:20 人
- ・平成 27 年 12 月 11 日 14:00～17:30
千葉市こども未来局 こども未来部保育運営課 障害児保育研修
参加人数:121 人
- ・平成 28 年 3 月 5 日 10:00～12:00
千葉市美浜区民生委員・児童委員全体研修会
参加人数:204 人

4. サロン「しえるろっく」

対象は、発達障害の診断を受けていて、診断名を告知されている 18 歳以上(高校生は含まない)の方である。活動を通じて仲間を見つけることや、自分を表現する力と他の人を理解する力の向上を目的とし、フリートークやゲーム形式で行っている。全 8 回実施した。

5. 子育てアシスト(年中児集団行動観察)

機関支援の一環として実施している。乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

今年度はフォローアップ子育てアシストとして、平成 24 年度～26 年度子育てアシスト参加園を対象に事前に説明会を行い、募集を行った。実施後に生じた新たな疑問についてフォローアップを行うことにより、園職員の更なる支援技術の向上を目指すことを目的とした。

保護者への事業趣旨説明とほめる子育てに関する講義を行う「子育てミニ講座」は、昨年度から継続して実施している。子育てミニ講座実施前よりも、「どのようなことを行っているのか分からない」という感想が減少し、「家庭での関わり方を見直すきっかけになった」「ほめることを意識するようになった」等、肯定的な感想が得られている。

【実施園】

- ・幼稚園 4 区(花見川、美浜、稲毛、若葉)6 園

【内 容】

- ・保護者への事前説明: 文書による趣旨説明。
- ・保護者への事前調査: ご家庭で困っていること、気になることの確認。
- ・集団場面での行動観察: 幼稚園での集団活動場面の様子を観察。
- ・ミニ講座: 保護者を対象に趣旨説明と子育てミニ講座を実施。
- ・職員と意見交換: 気になる子への対応方法などを協議。
- ・保護者への報告: 各児への所見を支援センターで作成。園から報告。
- ・保護者、各園職員へアンケート

【協力関係機関】

- | | | |
|-----------|-------------------------|-------------|
| ・養護教育センター | ・健康支援課 | ・各区保健福祉センター |
| ・千葉大学教育学部 | ・千葉大学子どものこころの発達教育研究センター | |
| ・千葉市桜木園 | ・千葉市療育相談所 | |

【実施結果】

	人数	障害の診断あり※1	相談機関等を勧める※2	対応方法アドバイス※3
花見川区 A 園	28	0	4	22
花見川区 B 園	19	1	2	8
美浜区 C 園	24	1	4	14
稲毛区 D 園	35	2	5	22
若葉区 E 園	96	1	12	62
若葉区 F 園	21	1	3	12

※1「障害の診断あり」は、疑いも含む。

※2「相談機関等を勧める」は、相談継続中の場合は除く。

現時点での勧めではなく、経過観察後の様子によって勧める場合も含む。

※3「対応方法アドバイス」は、子育て全般に関しても行っている。

【考察】

フォローアップ子育てアシストとして、過去に子育てアシストに参加経験のある園を対象に実施した。事前の説明会や子育てミニ講座の実施等、事業内容の説明の機会を設けたことに加え、過去に参加経験のある園での実施であったこともあり、参加後アンケートにおいて「どのようなことをしているのか分からない」という意見が減少した。

例年、実施後に発達障害者支援センターに園や保護者から相談があるケースはそれほど多くないが、平成27年度は実施園からの機関支援の依頼や、参加した保護者から発達障害者支援センターへの直接相談が行われるケースが増加した。子育てアシストをきっかけに、園より他の学年の児童に関する相談がある場合もあり、子育てアシストの実施が地域との連携強化に繋がっていると思われる。定期的なフォローアップの実施は、各機関での支援技術向上だけでなく、顔が見え、相談しやすい繋がりを形成していくことにも寄与すると考えられる。

6. ペアレント・トレーニング

発達障害児はその特性から叱責されることが多く、自信や意欲を失ってしまうことがある。ペアレント・トレーニングは発達障害のある子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を体験的に学び、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目的としている。

【参加者】

・ADHD と診断された子どもの保護者 8 名（幼稚園児 8 名）

【内 容】

セッション 1	オリエンテーション 子どもの行動を 3 種類に分けてみよう
セッション 2	肯定的な注目を与えよう ほめ方のコツ スペシャルタイム
セッション 3	好ましくない行動を減らすー無視とほめるの組合せー
セッション 4	子どもの協力を増やす方法①ー効果的な指示の出し方①ー
セッション 5	子どもの協力を増やす方法②ー効果的な指示の出し方②ー
セッション 6	子どもの協力を増やす方法③ーよりよい行動のためのチャートー
セッション 7	制限を設けるー警告とペナルティーの与え方ー
セッション 8	これまでのふりかえり

【考 察】

今年度は初めて父親の参加があり、グループが活性化された。受講者の子どもの年齢が全て年長児ということもあり、受講者同士の意見交換も活発であった。終了後の感想では「子育てに自信が持てるようになった」「自分の課題にも気付けるようになった」など肯定的な意見が多く、1 つの子育て手法としての効果は期待できる。

また今年度は初めて希望者多数により受講を断らざるを得ない状況にもなった。小グループでのセッションが基本であり参加人数が限られ、支援センターのみの実施ではニーズに対応しきれない。他機関でペアレント・トレーニングを実施できる人材を育成し、広く普及させていくことを検討したい。